

編集を終えて

2024年2月にリン低下薬のテナパノル塩酸塩が上梓され、ほぼ1年半が経過しました。テナパノル塩酸塩は小腸でのリン再吸収を抑えることで、高リン血症を改善させる新規高リン血症治療薬です。しかし、同時に腸管内のナトリウム濃度が上昇するため、投薬開始直後から軟便や下痢が起りやすくなります。そのため、患者さん個々の便通状況に応じて投与方法を検討する必要があり、今も試行錯誤しながら対応されている先生方も少なくないと思われます。

そこで、本特集ではテナパノル塩酸塩の特性と至適投与方法を明らかにする目的で、CKD-MBD領域のエキスパートの先生方をお願いし、使用経験に基づく症例集をまとめることにしました。

冒頭では、テナパノル塩酸塩の薬理学的特性と高リン血症治療への影響を総論として取り上げています。それ以降は、高リン血症に対する効果、便通異常に対する投与方法の変更（止痢薬の併用）、ポリファーマシー（リン吸着薬、下剤）に対する減薬効果、間食が多くて難治性の高リン血症患者への効果、腹膜透析患者の使用経験、テナパノル塩酸塩を投与してもリン管理が不十分な症例など、9名の執筆者から症例提示されており、各症例におけるポイントがわかりやすく解説されています。

ぜひ本症例集をテナパノル塩酸塩投与時の参考資料として、日常診療でご活用いただけると幸いです。

(加藤明彦)